

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実技VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎202
担 当 教 員	澤 卓 実	実務経験とその関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>臨床でよく目にする上肢の脱臼の発生機序、症状、施術方法、経過と予後について学習し各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断や応急処置について理解を深め、各損傷に対する、施術適応の判断ができ、適応となる損傷に対して適切な施術を行えるようになることを目標とする。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期末試験:90% ・各項目ごと的小テスト:10% 						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学・理論編(改訂第6版:南江堂) ・柔道整復学・実技編(改訂第2版:南江堂) ・標準整形外科学(改訂第12版:医学書院) ・PC、プロジェクター 						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織とは何かなど構造学的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント		
	各コマにおける授業予定	2-5. 前腕部の損傷 A・機能解剖				
第2回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	C・前腕部の軟部組織損傷				
第3回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	3-2. 股関節部の損傷 A・機能解剖				
第4回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	C・股関節脱臼				
第5回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	D・股関節の軟部組織損傷				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	E・股関節部の軟部組織損傷①			
第7回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	3-3. 大腿部の損傷 A・機能解剖			
第8回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	3-4. 膝関節部の損傷 A・機能解剖 D・膝関節脱臼			
第9回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	G・膝関節の軟部組織損傷 H・注意すべき疾患			
第10回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	3-5. 下腿部の損傷 C・下腿部の軟部組織損傷			
第11回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	3-6. 足関節部の損傷 A・機能解剖 D・足関節部の脱臼			
第12回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	E・足関節部の軟部組織損傷 F・注意すべき疾患 3-7. 足・指部の損傷 A・機能解剖			
第13回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	E・足根部の脱臼と軟部組織損傷 F・足指節関節・指節間関節脱臼			
第14回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	後期講義の総復習と前期末試験準備をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	後期講義の復習①			
第15回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	後期講義内容を理解できている	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	後期講義の総復習と前期末試験準備をしておくこと
	各コマに おける 授業予定	前期・後期の総復習			